

ウルグアイ経済報告（4月分）

【概況】

- 4月の消費者物価指数（対前年同月比）は8.17%となり、先月に続き政府のインフレ目標（3～7%）を上回った。前年同月比で家具・家庭用品及び娯楽・文化の分野では2桁、それ以外の分野は1桁台の増加であった。
- 4月の対ドル為替レートは平均34.13ペソと、前月比2.5%のペソ安となった。
- 4月の輸出額は864百万米ドルと、前年同月比10.1%増となった。セルロース、大豆、牛肉及び牛肉製品の輸出が好調であったことが輸出増加の要因。一方、コメ、乳製品、生体牛の輸出は不調であった。
- 4月の輸出額第1位は牛肉で、輸出額は164百万米ドル（前年同月比28%増）となった。同2位はセルロースで、輸出額は162.5百万米ドル（前年同月比55%増）となった。セルロースの輸出は、国際価格高騰により、2017年中旬以降増加傾向にある。同3位の大豆は、継続していた天候不良による不作の後、豊作期に入ったことで、輸出額は137.7百万米ドル（前年同月比41%増）となった。
- 輸出が特に不調であったのがコメ、乳製品、生体牛である。コメは輸出量減少に伴い、4月の輸出額は19百万米ドル（前年同月比58%減）となった。前年同月の主要輸出国であったイラク（前年同月輸出額22百万米ドル）及びベネズエラ（同7百万米ドル）への輸出がなかったことも、輸出額減少に大きく影響している。乳製品の輸出額は41百万米ドル（前年同月比30%減）となった。主要輸出先であるブラジル、中国、メキシコへの輸出が減少したことが主な原因で、特に粉ミルク（前年同月比31%減）及びチーズ（同12%減）の輸出が大きな落ち込みを見せた。生体牛の輸出は主要輸出先であるトルコへの輸出が50%減少したことに伴い、輸出額は14百万米ドル（前年同月比50%減）となった。
- 4月に輸出増加が目立ったのは、小麦及びトウモロコシで、2018年には輸出がなかった小麦の輸出額は7.6百万米ドルとなり、内6.7百万米ドルがブラジルへの輸出額であった。トウモロコシは定期的に輸出されている産品ではないが、新たな輸出先としてセネガルが加わったことにより、4月の輸出額は3百万米ドル（前年同月は3万5千米ドル）まで増加した。
- 4月の主要輸出先を見ると、先月に続き中国が輸出先第1位となった（183百万米ドル、輸出額全体の32%、前年同月比29%増）。特に牛肉、羊毛の輸出が増加し、冷凍牛肉の輸出は前年同月に比べ52%増となった。同2位はブラジル（104百万米ドル、輸出額全体の18%）であった。粉ミルクの輸出が前年同月に比べ45%減少したことで、前年同月比は2%減となった。同3位は米国で（47百万米ドル）、冷凍牛肉の輸出が39%増加したことに伴い、前年同月比は25%増となった。

【トピック】

1 JTERO ビジネス・ミッションのウルグアイ訪問

4月24日から26日にかけて、25社の日本企業がJTERO（日本貿易振興機構）ビジネス・ミッションとして、ウルグアイのビジネス環境を視察した。同ミッションのウルグアイ訪問中、トポランスキー副大統領及びベルガミノ暫定外務大臣への表敬、ビジネス・セミナー、ネットワーキングレセプション等が実施された。

25日のビジネス・セミナーでプレゼンテーションを行ったパブロ・フェレーリ経済財務次官は、「小国であるウルグアイでの雇用創出、経済・社会発展のためには外国からの投資が極めて重要であるところ、全ての外国投資を歓迎する。日本の場合、ウルグアイへの資金

流通を確保することが重要で、ウルグアイへの投資は、昨年 12 月の安倍総理・バスケス大統領間の会合を機に始まった二国間関係の新たな時代におけるウルグアイへの信頼の証となるだろう」と述べた。また、ウルグアイでは透明性、民主主義、平等、安定が確立されている点を強調し、特に安定した制度、フリーゾーンや自由港・空港の設備が、ソフトウェア、通信、観光業の発展及び市場の多様化に繋がっていると説明した。

2 政府による観光、農業、オーディオビジュアル分野への支援承認

4 月 29 日、パブロ・フェレーリ経済財務次官は、ケチチアン観光大臣及びベネッチ農牧水産大臣と共に、政府が農業、観光、オーディオビジュアル分野への支援を承認した旨発表した。観光分野では、本年 4 月 30 日までとされていた観光客（非居住者）への免税措置（食事、イベント開催時のケータリング、観光地での車両、不動産の借り上げを対象に、電子マネーもしくはクレジットカードでの支払いに限り、付加価値税（IVA）22%を還元）が 10 月 31 日まで延長された。農業分野では、国内での農業機械製造のための部品の輸入が免税対象となった。農業機械の輸入については免税が適応されているが、国内での機械製造促進を目的に、部品の輸入についても新たに免税対象とされた。オーディオビジュアル分野では、関連セクターへの支援及び、ウルグアイ国内での撮影に関心を持つ外国の作成会社呼び込みを目的に、4 百万米ドルで開発庁（ANDE）内に基金が設立された。

3 IVA 報告書

国税庁（DGI）は 2014 年以降更新していなかった付加価値税（IVA）脱税状況に関する報告書に関し、2016 年までのデータを修正・更新した。右報告書によると、2003 年から 2009 年にかけて脱税率は減少、以降多少変動はあったものの減少傾向にあった。今次発表されたデータによると 2002 年に最高値（41.5%）、2015 年に最低値（14.5%）を記録している。

4 為替レート

4 月 11 日時点での米ドル/ウルグアイペソの為替レートは 1 米ドル 34.128 ペソと、ウルグアイペソの流通が始まった 1993 年 3 月 1 日以来の最高値を記録した。

5 製造業生産活動指数

国家統計院（INE）の発表によると、2 月の製造業生産活動指数（IVF）の前年同月比は 2.5% 減となった。なお、経済研究センター（Ginve）の発表によると、UPM 社（セルロース）、モンテス・デル・プラタ社（セルロース）、ペプシコ社（炭酸飲料原料）を抜いたコア製造業生産活動指数は、前年比 4.9% 減となった。

6 自動車産業

4 月 10 日の自動車販売協会（ACAU）の発表によると、3 月の新車販売台数（トラック、バスを含む）は 3,266 台となった。本年第 1 四半期の走行距離 0 キロの自動車販売台数は、前年同期比 2,446 台減となり、前年同月比は 14 ヶ月連続でマイナスとなっている。

7 ウルグアイ国民による海外通販利用件数

税関庁（DNA）は、2019 年第 1 四半期のウルグアイ国民による海外通販利用件数は 103,865 件で、前年同期比 14.8% 増となった旨公表した。ウルグアイでは、18 歳以上の国民は、200 米ドル以下、20 キロ以下の小包であれば、年 3 回まで関税が免除される。なお、2018 年の海外通販利用件数は 379,195 件で、対前年比 6.95% 増となった。（了）